

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県・北九州市 】

学校名【 福岡県立北九州高等学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V
2 実施対象者 (学 年・人 数)	福岡県立北九州高等学校 体育コース 第3学年 39名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (専門教科・体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	・オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高め、スポーツを楽しむ心(する・見る・支える・知る等)を育成する。 ・パラリンピックについて学び、競技を体験することによって知識や用具・施設について理解を深める。
5 取組内容	① パラリンピックについて 令和3年7月5日(月)：2時間 I'm POSSIBLE(国際パラリンピック委員会公認教材)を活用し、東京オリンピック・パラリンピックが開催される前に、パラリンピックへの興味関心を高め、知識を身に付けるために行った。  また、夏休み期間中にオリンピックとパラリンピックを見ることを課題とし、感想を記入させた。その結果、選手だけでなく支える人に興味を持つ生徒が多くいることがわかった。 ～ 感想の一部 ～ ・選手が最後まで諦めずに戦っている姿を見て、どんな困難があってもすぐに諦めたらいけないと思った。

	・パラリンピックは様々な道具を使っていて、その人にあった形や重さなど調整し作っている人に興味をもった。 ② シットイングバレー体験 令和3年8月30日（月）：2時間 パラリンピックについて学習後、実際に体験するためシットイングバレーのルールを説明し動画を視聴後、実施した。  初めは、思うように動けず苦戦していたがチーム内で協力し少しずつボールをつないで攻撃することができるようになった。
6 主な成果	・障がいがあってもなくても、障がい者スポーツは全員で楽しく行えるスポーツだということを知ることができた。また、ルールを工夫すればより面白いゲームが展開できるということが実感できた。 ・慣れない状況の中で、6人でボールをつないで攻撃したり、ボールを拾ったりする難しさを体感できた。時間が経つにつれ、サーブブロックしたり、相手の動きを見てコースを打ち分けたり白熱したゲームを行っていた。 ・実際に競技を行うことで、障がい者スポーツや障がいそのものへの理解を深めることができた。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	競技を行う前に、試合を行っている動画を見せることでどのようにしたらスムーズに動けるのか、ボールをつないでいけるのかを積極的に話し合う姿が見られた。柔らかいボールを使用することで、全員が積極的にボールを拾っていた。 今回は、体育コースに所属していない3年生にも実技のみ体育の時間を使って実践した。 
8 主な課題等	今回、体育コース以外の生徒にも実施したが体育コースと比べて短時間での技術習得にはつながらなかった。体育コース以外の生徒に実践する際は、十分な時間や事前学習が必要だと感じた。
9 来年度以降の実施予定	来年度以降の実施予定は未定だが、体育の授業の中で障がい者スポーツを取り入れることで、運動が得意不得意関係なく全員が楽しく活動できる場になると考える。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福岡県・北九州市 】

学校名【 福岡県立 北九州高等学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ (III) ・ IV ・ (V)
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	福岡県立 北九州高等学校 体育コース・女子 第3学年 11名 第2学年 14名 第1学年 12名 計37名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	・パラリンピック競技である車椅子バスケットボールを体験し、競技に関する知識や用具・施設について理解を深める。 ・パラリンピックや障がい者スポーツへの関心を高め、一人一人の多様性を認め合いながらスポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築を図る。
	令和3年12月6日（月）13：25～15：15 講師：障害者スポーツセンター アレアスより3名 パラリンピック種目である車いすバスケットボールを体験し、競技に関する知識や用具・施設について理解を深めるために実施した。その中で、一人一人の多様性を認め合いながらスポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築を図ることを目的として行った。  

	パラリンピックに出場できる選手は、何らかの障がいがある人しか出場できないのに対して、パラスポーツやアダプテッド・スポーツと言われるものは障がいがある人だけでなく、障がい者に合わせたスポーツであるということを講話していただいた。 その後、車いすの操作やルールの説明をしていただき、実際に体験した。車いすの操作が初めての人が多く、実際に乗ってみて操作の難しさやその中でボールをコントロールする難しさを体感した。 基本練習（ドリブル・シュート）の様子  試合の様子 
6 主な成果	車いすの操作とボールを扱うこと、チームのみんなとの連携を行わないとシュートまでいけない難しさを体感することができた。また、障がい者スポーツは障がいの有無にかかわらず参加できるスポーツがあるという知識も広がり、障がい者スポーツへの興味関心も高まった。
7実践において工夫した点（事業の特色）	競技に関わる選手の苦労を感じることで、「する・見る」だけでなく「支える」という視点にもつながっていくことを意識させた。
8主な課題等	障がい者スポーツは、だれでも楽しく行えるスポーツだということを多くの生徒に知ってもらい、体験する場が必要である。また、運動が得意不得意にかかわらずスポーツを楽しむことができるので、今後の学校生活を通して、体育コースだけでなく体育コース以外の生徒たちにも伝えていくことが大切だと感じた。
9来年度以降の実施予定	来年度以降の実施はまだ検討中だが、本校は、体育コースもあるので部活動に所属している生徒も多にいる。そこで、オリンピックやパラリンピアンを実際に招聘し講話していただくことで、生徒へ大きな刺激になるのではないかと考える。